

井上勲 筑波大学名誉教授が第 25 回南方熊楠賞 [自然科学の部] を受賞

石田健一郎

井上勲先生（筑波大学名誉教授）が第 25 回南方熊楠賞（自然科学の部）を受賞されました。平成 27 年 5 月 9 日にその授賞式および記念講演「藻類という視点～地球と生物進化を理解する「萃点」として」が、和歌山県田辺市紀南文化会館で行なわれました。井上先生の、長年にわたる藻類の細胞生物学、分類学などの基礎研究、藻類バイオマスの可能性についての応用研究、大著「藻類 30 億年の自然史」の出版や「藻類画像データ」のインターネット公開、などを通じた藻類学分野の推進が高く評価されました。

日本の藻類学が海藻や淡水の（比較的大きな）微細藻中心だった頃、井上先生は一人で、プラシノ藻やハプト藻といった海産の（小さな）微細藻の細胞構造学、分類学の研究を開始された、と聞いています。海水の濾過装置を自作し培養法も検討されて、電子顕微鏡による鞭毛装置構造の比較という当時最先端の手法も導入されて、これら“新しい”藻類群の多様性研究の道を拓かれました。まさに日本の現代微細藻類学のパイオニアとして、日本の藻類学を世界と対等にわたり合えるレベルにまで牽引してこられました。

また、お弟子さん達の指導を通じて、ハプトネマの捕食器官としての新機能の発見や複数の新綱の設立を含む不等毛藻の多様性と進化の研究、さらには不等毛藻類に近縁な原始的無色原生生物群プラシディア綱の発見と分類、半藻半獣生物ハテナの発見と細胞内共生による「植物化」のモデルの提唱、盗葉緑体を持つ新奇渦鞭毛藻の発見など、幅広く研究を展開されています。これらはいずれも藻類についての認識を大きく変える、インパクトのあるものでした。

このような研究活動の一方で、藻類の面白さ、美しさ、地球史と生物進化における重要性を社会に対して訴え続けてこれ

ました。インターネットが普及するといち早く「藻類画像データ」を公開し、藻類に関するわかりやすい解説と豊富な画像データを提供されました。藻類に関する情報が少ない中、このサイトは多くの人々に重宝されたのではないかと思います。さらに、毎晩晩酌をしながら執筆されたという大著「藻類 30 億年の自然史」は学生や藻類関係の研究者だけでなく、他分野の研究者や教育者、企業関係者、公務員などの多くの方々にも手に取っていただけており、社会における藻類の認知度が大きく向上しました。今日、私たちの藻類研究が僅かでも注目を得られ、メディアでも取り上げられるようになり、そこそこの研究費を得ることができる背景の一端は、これら井上先生の啓蒙活動によるものだと感謝しています。

近年は、藻類バイオマスを中心に藻類の利用に向けた応用研究を展開されています。特に、藻類産業創成コンソーシアムの代表理事として、大学と企業、あるいは企業間の連携を推進するとともに、「福島復興次世代再生可能エネルギー技術開発事業（福島藻類プロジェクト）」の代表者として藻類バイオマスの研究開発を行なっておられます。

このように、井上先生は藻類分野の現代版南方熊楠といってもいいほど、真に日本の微細藻類研究を牽引し、大きな影響を及ぼした研究者の一人であり、今回の賞はまさに井上先生にぴったりの賞といえます。南方熊楠賞は、ご本人も「南方熊楠賞でなかったら辞退していた」というほど、自然史系研究者にとっては思い入れのある賞です。井上先生には、この度の受賞を心からお喜び申し上げます。また、井上先生他多くの方々によって築かれてきた日本の藻類学を、さらに深め発展させる責任が後に続く我々にはあると、改めて自覚させていただく機会となりました。

（筑波大学）



受賞の挨拶をする井上先生



石垣島で藻類の採集をする井上先生